



JAPANESE A1 – STANDARD LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS A1 – NIVEAU MOYEN – ÉPREUVE 1
JAPONÉS A1 – NIVEL MEDIO – PRUEBA 1

Thursday 16 November 2000 (afternoon)
Jeudi 16 novembre 2000 (après-midi)
Jueves 16 de noviembre del 2000 (tarde)

3 hours / 3 heures / 3 horas

INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Section A: Write a commentary on one passage. Include in your commentary answers to all the questions set.
- Section B: Answer one essay question. Refer mainly to works studied in Part 3 (Groups of Works); references to other works are permissible but must not form the main body of your answer.

INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- Ne pas ouvrir cette épreuve avant d'y être autorisé.
- Section A : Écrire un commentaire sur un passage. Votre commentaire doit traiter toutes les questions posées.
- Section B : Traiter un sujet de composition. Se référer principalement aux œuvres étudiées dans la troisième partie (Groupes d'œuvres) ; les références à d'autres œuvres sont permises mais ne doivent pas constituer l'essentiel de la réponse.

INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- Sección A: Escriba un comentario sobre uno de los fragmentos. Debe incluir en su comentario respuestas a todas las preguntas de orientación.
- Sección B: Elija un tema de redacción. Su respuesta debe centrarse principalmente en las obras estudiadas para la Parte 3 (Grupos de obras); se permiten referencias a otras obras siempre que no formen la parte principal de la respuesta.

第二部

次の I (a) の文章と I (b) の詩のうち、どちらか一つを選んで解説しなさい。(コメントリーを書きなさい)

I (a)

5 その朝、少年は言葉を知った。もちろん生まれてからこのかた、彼は言葉を人なみに話してきたし、いくつかの文字を書くこともできた。その年ごろの少年としては、語彙はむしろ多いほうだったし、実際、彼はそれらをなかなか巧みに使っておどしたり、だましたり、あまえたり、ときには本当のことを言ったりもしていたのだが、それはそれだけのことだった。いまとなつては、ただ使うだけの言葉などというものは、とるに足らぬもののようにも思えるのである。

10 きつかけはごく些細なことだった。その朝彼は突堤の先端に腰かけて、誰もがやるように足をふらんぷらんさせていたのである。そのとき、なまあたたかい波しぶきが、はだしの踵にかかったのだ。周囲に語りかけるべき他人はいなかったし、それはべつに言葉にする必要など全くないささやかな出来事だったのだが、なんのはずみか彼はその瞬間、〈海〉という言葉と〈ほく〉という言葉、全く同時に頭の中に思い浮かべたのである。

15 それから先、彼には考えることも、言葉にすべきこともべつになかった。彼はだから、〈海〉・〈ほく〉というふたつの言葉を、ぼんやりと頭の中でおぼしきでもするみたい、ぶつけ合わせていたのだが、そのうちに妙なことが起こった。〈海〉という言葉が頭の中でどんどん大きくなってゆき、それが頭からあふれ出して、目の前の海と丁度ふたつの水滴が合体するような工合に、突然とけ合つてひとつになつてしまったのである。

20 それと同時に、〈ほく〉という言葉のほうは、細い針の尖のように小さく小さくなつていったけれども、それは決して消滅はしなかった。むしろ小さくなればなるほど、それは頭の中から彼のからだの中心部へと下りてゆきながら輝きを増し、いまや海ととけ合つた〈海〉の中で、一個のプランクトンのように浮遊しているのだった。

25 これは少年にとって思いがけぬ経験だったが、彼は少くとも初めのうちはおどろきもしなかったし、不安も感じなかった。それどころか彼は口に出して、したり顔に「なるほどね」と言つたくらいだ。しかももちろん、冷静だったというわけでもない。彼はからだの内部に、自分のものではない或る強い力の湧いてくるのを感じた。

30 思わず立ち上りながら、彼は「そうか、海は海だつてことか」と呟いた。そうしたら、急に笑い出したくなった。「そうさ、これは海なんだよ、海という名前のもじやなくて海なんだ」もし友人がかたわらにいたら、こんな独自は一笑に付せられただらう。頭の隅でちとそんなことを考えながら、彼はふたたび呟いた。「ぼくはぼくだ。ぼくはいるんだ、ここに」そして今度は、泣き出したくなった。

35 急に彼はおそろしくなった。頭の中をからっぽにしたかった。〈海〉も〈ぼく〉も消してしまいたくなった。言葉がひとつでも思い浮かぶと、頭が爆発するんじゃないかと思った。言葉という言葉が大きさも質感もよく分からないものになってきて、たったひとつでも言葉が頭を占領したら、それが世界中の他のありとあらゆる言葉にむすびつき、とどのつまりは自分が世界に呑みこまれて死んでしまうのではないかと感じたのだ。

(谷川俊太郎「ユカコーラ・レッスン」思潮社)

(注) 谷川俊太郎(一九三二-) 詩人。『二十億光年の孤独』『絵本』『日々の地図』など多くの詩集がある。

1 少年はことばについて、どんな事を発見したのでしょうか。

1 「からだの内部に、自分のものではない力がわいてきた」「泣き出したくなった」とありますが、少年はその発見をどのように感じたのでしょうか。

1 「おはじきをする」「水滴が合体する」などの比喩は、どのようなことを表現していますか。比喩によって、どのような効果が生じていますか。

1 あなたはこの文章から何を感じますか。ことばについての作者の説明から、あなたの考えるところを述べなさい。

1 (b)

富士山

川面^{くわめん}に春の光はまぶしく溢れ。そよかぜが吹けば
光りたちの鬼^{おに}ごっこ^{ごっこ}葦の葉のささやき。
行行子^{よしきり}の舌にも春のひかり。

土堤の下のうまごやしの原に。

5 自分の顔は両掌のなかに。

ふりそそぐ春の光りにかえって物憂く。
眺めていた。

少女たちはうまごやしの花を摘んでは巧みな
手捌^{てあは}きで花輪をつくる。それを縄にして

10 縄跳びをする。花輪が円を描くとそのなかに

富士がはひる、その度に富士は近付き、とほくに座る。

耳には行行子。

頬にはひかり。

(草野心平『富士山』 一九四〇年)

(注) 草野心平(一九〇三〜一九八八)詩人。詩集に『蛙』『富士山』

『天』などがある。「富士山」は、一九四〇年頃の作品。

行行子 よしきり。小鳥の名称。鳴き声がギョーンギョーンであることによるらしい。

うまごやし まめ科の植物。葉は三つ葉でクローバーに似ている。

1 「そよ風が吹けば光りたちの鬼ごっこ」は、何のどんな様子を描いているのでしょうか。

1 「自分」は、どこでどんな姿勢で何をしているのでしょうか。

1 作者が周囲の情景や「富士」を見る見方にはどんな特徴がありますか。

1 作者は「光りたちの鬼ごっこ葦の葉のささやき」と句読点もなく続けたり、

一行ごとに読点の「。」をつけて行がえをしたりしています。このような表現からどんな効果が生じていますか。

第二部

授業で学習した部門(Part 3)から、(a)(b)の問題のうち一つを選んで、エッセイを書きなさい。エッセイを書くにあたっては、必ずPart 3で学習した文学作品三つのうち二つに言及すること。なお、この二作品のほか、他の作品について述べてもよい。

2. 美の探求

- (a) 日本の文学作品の中には、散りゆく桜を惜しむような、はかないものを美しいと感じる美意識があると言われていますが、あなたの読んだ作品の中にその例が見られるでしょうか。あなたの考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) あなたの読んだ作品の中で、「美」に関する主題を述べるために作者はどのような工夫くふうをしていますか。その工夫は作品の中でどのような効果を上げていますか。

3. 個人と社会

- (a) あなたの読んだ作品の中で、描かれている人間像とその時代の社会道徳との関係について、あなたの考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) 社会の豊かさがかえって、難しい人間関係を生み出すこともあるという意見があります。社会の豊かさと人間の生き方との関係についてあなたの考えるところを述べなさい。

4. 自然と人生

- (a) あなたの読んだ作品の中で、自然を描写するときに、視覚や聴覚を積極的に用いているものをあげ、それがどんな効果を生じているかについて、あなたの考えを述べなさい。

あるいは

- (b) あなたの読んだ作品では、自然の持つ「力」がどのように描かれていますか。それは作品の中でどのような効果を与えていますか。いくつか例をあげて比較し、あなたの考えるところを述べなさい。

5. 家庭

- (a) 「幸福な家庭は似通っているが、不幸な家庭はそれぞれ異なっている」と述べているのはトルストイですが、あなたの読んだ作品では家庭はどのように描かれていますか。あなたの読んだ作品から例をあげて、考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) あなたの読んだ作品において、家族と家族をとりまく社会との関係はどのように描かれていますか。

6. 愛と友情

- (a) あなたが読んだ作品において、恋愛と倫理は、どのような関係にあると言えますか。具体的に例をあげて、あなたの考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) 愛は、理屈では説明できない運命的な力^{ちから}をもつものとして描かれることがあります。愛の「力」について、作品から例をあげて比較し、あなたの考えるところを述べなさい。